

GAPを活用してより良い農業経営を目指そう！

～梨の生産、販売に携わる女性農業者へのGAP手法の導入・定着～

1 活動のねらい

市原市には梨の栽培、販売に携わる女性農業者の学習組織「いちほらフルーツセミナー」（会員数9名）があり、販売の強化や経営の改善を目指して活動しています。梨産地を、更に発展させていくために、GAP手法を活用して、作業時の事故リスク低減や直売所での衛生管理の向上に取り組む必要がありました。そこで、千葉事務所では、市原市やJA市原市と連携して、「いちほらフルーツセミナー」の会員を対象にGAP研修を開催し、その手法を取得しました。

2 課題の背景

梨の栽培では、せん定など管理作業でハサミやノコギリを使用する機会が多く、薬剤散布作業や耕うん作業時には大型機械がほ場内を頻繁に走行します。そのため、作業中の事故の危険が高く、安全対策を講じる必要があります。また、「いちほらフルーツセミナー」の会員は直売が主体のため、直売所での新型コロナウイルスの感染症対策や出荷調製作業の衛生管理を徹底して、消費者へ安全な農作物を提供することで、産地の評価向上につなげることも重要です。

3 普及活動の経過・結果

(1) GAP導入の動機付けに向けた聞き取り調査の実施

GAP研修の開催にあたり、事前に会員を1戸ずつ巡回して、営農する上での問題を聞き取りました。会員は、直売所の衛生管理や農作業時の安全対策について関心が高く、作業時のヒヤリハット事例や、直売所での衛生状況などについても確認しました。

この結果を基にして、6月に農作業事故体験VRの視聴や直売所の問題点を話し合う研修会（関係機関の職員を含め16名参加）を開催しました。農作業事故体験VRは、千葉県農業者総合支援センターの協力を得て実施し、「事故は他人事ではなく、自分事である」という認識を深めることができました。また、聞き取り調査の結果を会員と話し合うことで、GAP手法への関心が高まりました。

(2) 外部講師による直売所などの点検と指導

梨を販売する前の7月に、会員2名の直売所とほ場、作業場をJGAPアドバンス上級指導員と一緒に点検しながら、問題点や改善方法を学びました。研修に参加した会員は、6月の研修で出た意見を念頭に、GAP手法を用いて圃場や直売所を点検しました（12名参加）。

GAP指導員は、ハサミなどの備品の設置場所が一目で分かる工夫を

している点や、客と従業員の動線がよく考えられている点などを評価していました。会員からは「整理整頓がGAPの基本であることが理解でき、事例を見習って、自分の直売所や作業場で実践していきたい」という意見がありました。



写真1 直売所の衛生管理などを点検



写真2 梨のほ場で安全管理を点検

(3) 直売所の事後点検や反省会を開催

10月には、ちばGAP農産物個別基準（果樹）に、指導員から指摘を受けた内容や会員が行っている感染症対策を追加したセルフチェックシートを用いて、会員の直売所で事後点検を関係機関の職員と一緒にを行いました（7名参加）。

また12月には、会員や関係機関の職員が集まり、会員がセルフチェックシートの内容を基に討議し、本年度の反省点と来年度の目標を話し合いました（11名参加）。その結果、直売所での整理整頓や、パートの業務手順をマニュアル化して提示すること、救急箱の設置などが改善されました。今後は、作業場の電灯をLEDにすることや、出荷コンテナの清掃回数を増やすこと、来客者の事故防止のため駐車場にコーンを置くこと、ほ場の危険箇所に目立つ色で目印を付けることなどの改善をする予定です。

(4) 会員がJGAP指導員の資格を取得！

市原市が指導員資格取得の補助事業（市原市JGAP指導員資格取得事業）を新設し、これを利用して会員2名がJGAP指導員の資格を取得しました。生産者にGAP手法に関する理解が定着するとともに、産地でのGAP推進に向けた体制がより強化されました。

4 今後の課題

次年度は、JGAP指導員資格を取得した会員の直売所やほ場で研修会を開催し、GAP手法の定着と農業経営の改善に向けて、引き続き女性農業者の活動を支援していきます。

5 担当者 市原グループ 戸谷 智明

6 協力機関 市原市、JA市原市